

# 加西病院の取組みについて

## 一般質問



土本 昌幸 議員  
(公明党)

**問** 医師数の減少により、収支が悪化したとの報告がありました。北播磨総合医療センターは黒字転換し、病床稼働率も90%を超えているとの報道がありました。医師の確保と収支の改善策についてお伺いします。

**答** 平成27年度から28年度、内科医師2名、整形外科医師1名、神経内科医師2名、精神科医師1名、計6名の医師が減り、加西病院が最も強い内科、神経内科、精神科の医師が減少したため、28年度は大きな患者減となりました。

ただ、新しい専門研修医制度が来年から始まります。内科を専門研修の場として提供し、基幹病院になることで、3名の受け入れ枠が発生し、医師確保が図られると思われま。

また、医師のあっせんを行う民間事業者に派遣をお願いしており、その紹介により8月に泌尿器科医師を採用しました。患者さんもふえ、泌尿器科の手術も可能となることで、医療サービスの充実が図られていくと考えております。

**問** 病棟の耐震性について、西館、東館、本館の状況をお聞きます。また、病院の将来性についてお伺いします。

**答** 西館は平成15年建築。東館は昭和59年、本館は昭和49年建築で、昭和56年の新

耐震基準の改正に合致していないのは本館です。

(市長) 平成21年から基本的には経営も含め、全責任を事業管理者が負う体制となり、一定の成果も得ていますが、国全体の大きな流れの中で、医師の都市部や大病院への偏在が強力に進行し、地方の公立病院は、勝ち残っていけない状況になっています。

まず市民の皆さんが加西病院に望んでいるものをしっかりと把握したい。

そして耐震化に合致していない状況ですが、建っているところが非常に頑丈で、中央棟の敷地に建て直すのか、別の方法か、その選択については、もう少し時間を頂戴したい。

加西病院がどういう機能を担うのかを見定めるためにはもう少し時間が必要ではないかと思っております。

# 加西病院の現状について

## 一般質問



長田 謙一 議員  
(21 政会)

**問** 加西病院の提供している医療業務はどのようなものか。

**答** 加西病院の医療機能としては、専門外来と、救急では二次救急を担っています。さらに、リハビリを行う回復期医療も実施しています。

専門外来は、内科の糖尿病、肺疾患、消化器、肝臓病、心臓病や小児科での脳神経、腎臓外来です。眼科では、緑内障、白内障等の手術、入院加療も行うこともできます。

また、地域のかかりつけの医院と自治体病院との連携が重要な役割を果たしていると考えています。

**問** 地域タウンミーティングで何が議論されたのか。

**答** 市内10ヶ所で行いました。当初、病院に対し否定的な意見が多いのではと心配していましたが、建設的な意見や、病院改革の希望等、大変ポジティブな意見をいただきました。その中で、これまで急性期で、手術、治療が終われば14日間程度で他の病院、施設へ転院であったのが、もう少し長い期間加西病院で看れるようになったことで、多くの喜びの声を聞きました。

また、院長は、今までは医療人が思う医療を行ってきたが、これからは地域住民が求める医療を行

い、市民が希望する医療に取り組みたいと言っており、病院としてそのように進めていきたいと考えています。

**問** 現状の加西病院の緊急医療体制について。

**答** 現在の救急医療の受け入れ体制は、平日は医師1名、内科系または、外科系医師1名が常時入り、21時までは内科、外科の組み合わせで救急体制をとっています。

また、土曜、日曜日については内科、外科の2科受診できる状況を確認しており、市内外を問わず24時間体制で対応できます。

特に、急性心筋梗塞の患者さんについては、消防本部から循環器の医師へのホットラインにより、24時間、常に受け入れ可能としています。